

ちょっと人権

外国人は外の人じゃないぞ！ 号

人権教育セミナー短信 No. 5 平成 18 年 8 月 11 日

習慣や風習は違っていても、同じ場所で同じ時間をすごせば、

互いを大事にしたい思いと、相手の立場で考えようとする心が育ちますね。

第6講座 外国人と人権

1. ワークショップ「世界の文化と人権課題」

16 問の「世界の文化と人権課題のクイズ」に挑戦してもらいました！！

身近な国内の人権課題からホロコースト（ユダヤ人に対する虐殺行為）やキング牧師暗殺まで、幅広く問題を設定しました。問4の「高知県の橋本知事に国籍条項廃止の取組を申し入れ、運動の中心となった女性の名前は？」の答えは権玉姫さん。権さんは午後の講師でした。もっとも難問と思われた「エジプトで8才～10才の児童によって摘み取られている、香水の原料として有名な花は？」（答え：ジャスミン）にも、複数の正解者がいて「さすが勉強されているな・・・」と、担当者はうなっていました。

2. 実践発表「四国朝鮮初中級学校との交流」〔中土佐町立久礼小学校 教諭 森本純生さん〕

7年前から続く愛媛県の四国朝鮮初中級学校との交流は、近頃の、特に北朝鮮の貧困と独裁制のみが報道され、在日コリアンへの差別（意識）が助長される今だからこそ、大きな意味をもつものです。互いの学校を行き来し、遊びや勉強を通して培われてきた関係は、偏見による差別への怒りを共有することができます。手紙やメールなどだけでなく、直接ふれあつての交流は、子どもの心に深く残ることでしょう。

正しい出会い方で、正しい情報を伝えることは、学校の大きな役割であることを示してくれた発表でした。



3. 講話「在日コリアンから見た日本」〔権玉姫さん〕



権さんの父親は、強制連行されてきた日本から戦後韓国に戻りました。韓国で生まれた権さんは、同じ強制連行で日本に渡った両親をもつ、在日2世の金さん（高知在住）と結婚するために高知にきました。

権さんは、差別の厳しさを思いながらも、日本（高知県）で子どもを育ててきました。娘の就職が近くなって、日本で生まれ、日本で育ち、日本語を話し、日本人の友達と過ごしてきた娘が、公務員試験を受けられないことに強い憤りを感じ、橋本知事に国籍条項の廃止を申し入れます。厳しい闘いの末、高知県では全国に先駆けて国籍条項を廃止されました。権さんは、生活の中で繰り返される差別の厳しさと、

行政の矛盾を感じながら生きてきました。「在日」の立場をもつ多くの友達は、闘う気力も奪われ、耐えることを選びます。しかし、権さんは「間違いは、間違い。」「許せないことは、許せない。」強い意志で、多くの差別と向き合ってきました。講演の最後に、「この強さは母であること。」と語られました。

参加者の感想より

- 100 の理屈よりもひとつの出会いですね。久礼小学校と「朝鮮人学校」との出会い、午後の権さんとの出会い、とっても大切なことでした。来てよかったと思います。
- 私の学校では、英語圏の方とだけ交流し、韓国、中国の方とは全く交流できていない。なんとか伝（つて）をたよって交流をしたいと思う。インターネットや図書で調べることも大切だが、人と出会うことがより大切なように思った。
- 権さんのお話に聴き入ってしまいました。体験された方の話は心を打つものがあります。日常をふり返るきっかけとなりました。まず自分から。